

No.	起案者	テーマ	テーマ設定の背景 (事由等)	研究活動の概要 (やるべきことの概要及び最終成果物のイメージ等)	参加して欲しい会員の特徴 (参加メンバーの時間的余裕や資格取得、専門性等の制約条項)	活動プラン (活動予定日、頻度、場所等)
1	赤石 倫子	中小企業経営にP2Mを活用する	・昨年度のテーマを継続発展させる。作成途中、作成予定だったものを完成させる。または、完成したものの精度を上げる。	① 昨年度の継続(続きの成果物の作成および、ブラッシュアップ) ② 追加の成果物のイメージ ＜方針＞P2Mガイドブックおよび「実践 プロジェクト&プログラムマネジメント」をベースに、中小企業経営で具体的に実践すべき内容を、事例とオリジナルな発想により提示する。 ＜成果物＞ 中小企業向け実践P2Mハンドブック(xxx編)	・経営に詳しい方あるいは興味のあるかた、自身で事業をされている方、P2Mを理解しようとする意欲のある方	・2か月に一回の会合を実施し、担当している成果物の確認を行う。 ・それ以外は、電子メールで進捗を定期的に確認する
2	戴 春莉	グローバル事業展開の勘所の研究 ——言葉の壁・人間関係の壁を超える問題分析のアプローチ(副題)	・グローバル社会の進化によって、顧客の海外進出、海外企業の日本進出を含めてマーケットの変化があり、グローバル環境での事業戦略を考える必要がある。 ・グローバル環境の中、複雑で見えない問題が多くなり、経験に依存する過去のやり方では、グローバル事業展開の勘所を掴みにくくなってきた。短い期間で的確に勘所を掴むことが求められている。	・グローバルな事業戦略に必要な経営戦略、IT上流工程マネジメント、リスクマネジメント、プロジェクトマネジメントなどを進めるために、まず最初のシステム分析を解析的手法に当てはめて、その勘所を追求する。ここでは、実際の事例に数学構造モデルを当てはめて、問題をデザインし、問題の可視化手法を適用する。この分析により、科学的な根拠を得て「勘所」を掴むことを探る。すなわち、この研究は、経験・言葉の壁を超えて数学モデルによる解析的問題分析のアプローチにより、その効果を評価する。	・主に経営戦略を議論していきますので、経営者の参加を期待します。	・場所:株式会社テックコミュニケーションズ。(京都阪急西京極駅7分) ・頻度:月1回 日曜日14時~17時を予定、変更もあり。 ・活動予定日:(研究会の中で決めます)
3	土肥 正利	社会システム理解へのSSM適用	・昨今、混迷する政治、経済、外交、年金問題、エネルギー問題。これら複雑な社会システムの“解”は立場により異なる。 ・我々を取り巻く社会環境をシステムとして本質を捉え、“アコモデーション(折合い)を探るための手法、アプローチを研究し、複雑系システムへの対応力を向上させたい。	・システムズアプローチの手法としてSSM(ソフトウェアシステムメソッドロジー)を学習する。→収集資料、輪番制の学習結果。 ・社会システムを(例えば、年金、税制、死刑制度など、)SSMにより当該システムが何をやるものであるかメンバー間の合意形成の過程を体験する。→具体的な社会システムへのSSM適用結果。	・社会システムに関心がある人。 ・取得資格は特に問いませんが社会保険労務士さんなどがいてくれるとアドバイスいただけるのかなと思います。 ・複雑なプロジェクトヘステークホルダーの合意形成を取りながら推進した経験のある方。	・活動予定日:平日の就業後 ・月1~2回の集合形式による打ち合わせとメールによる意見交換。 ・新大阪、梅田界限
4	上原 賢明	「プログラムマネジメント実践人材」の養成テキスト作成	・日本の産業界は一部を除き、大きな事業構造の転換期を迎えている。 ・そこで要求されるマネジメントは、旧来型の「守り」に重心を置いたものから「攻め」のマネジメントである。 ・このような環境下、P2Mの本質を見抜き、プログラムマネジメントの人材育成テキスト(別冊)としてまとめてみたい。	・各社の経営幹部人材育成事例収集。(著作&ヒヤリング) ・上記とプログラムマネジメントとの関連を調査。 ・その結果として、現P2M記述にいくつかの新規要素を付加して「日本の産業界を救う大型人材育成」(仮称)としてまとめあげる。	・特に制限はないが、柔軟な思考で時にはP2Mを否定するような大胆さは大歓迎。(P2Mという固まった枠内だけにいと、解決策は見えてこないかもしれない)	・基本は月1回。(週と曜日・時間を決める) ・場所は各社持ち寄りかPLS梅田。
5	下野 善弘	グローバル変更管理	・製品の変更には大きなリスクがあるが、生産中止や改善のためには避けられない。しかも、昨今グローバル調達、オフショア開発、海外生産拠点、グローバルグループ会社との共同設計等、リスクはさらに増大している上に、スピード、効率、品質もより要求が厳しくなっている。	・社内の設計変更、工程変更、サプライヤーによる部品変更を、各工場拠点、グループ会社、グローバル調達に広げる上で、スピード、効率、品質を全体最適化できる仕組みを確立する。	・業務上、品質管理、変更管理に関わっている方、もしくは過去に関わった方や、このテーマを一緒に検討したい方	・掲示板やメールを利用し、集まったの会合は月1回程度とする。 ・場所は、可能であれば会員の会社の会議場所や、集まるメンバーに便利な京阪神の会議場所など